



## 2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年11月5日

上場会社名 株式会社ジーテクノサイエンス  
 コード番号 4584 URL <https://www.g-gts.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 谷 匡治  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営管理本部長 (氏名) 栄 靖雄  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

上場取引所 東  
 TEL 03 - 6222 - 9547

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	313		611		613		6,550	
2019年3月期第2四半期								

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 6,569百万円 ( %) 2019年3月期第2四半期 百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	236.95	
2019年3月期第2四半期		

(注) 1. 2020年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2019年3月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載してありません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載してありません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	2,816	2,243	78.1
2019年3月期			

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 2,200百万円 2019年3月期 百万円

(注) 2020年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2019年3月期の数値については記載してありません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,050		1,220		1,260		7,260		262.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は主として年次での業績管理を行っていることから、通期の業績予想のみ記載しております。また、2020年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載してありません。

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 1 社 (社名) 株式会社セルテクノロジー、除外 社 (社名)

(注)詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期2Q	27,646,986 株	2019年3月期	20,342,446 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2020年3月期2Q	45 株	2019年3月期	株
------------	------	----------	---

期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期2Q	27,643,905 株	2019年3月期2Q	19,205,035 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

当社は、2019年11月6日(水)に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会は当該四半期決算補足説明資料を用いて実施いたしません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社は、新たな事業ステージを指すGTS3.0「バイオで価値を創造するエンジニアリングカンパニー」を目標に掲げ、これまでの事業活動で得てきたバイオ技術に関するノウハウ及び知見を最大限活用し、従来より手掛けてきた希少疾患、難病に加えて、小児疾患を重点的なターゲットと定め、これらの疾患に悩む患者様、そのご家族や介護者の方を含めた包括的なケアを目指して、新薬のみならず新たな医療の開発・提供に取り組んでおります。具体的には、バイオ後続品事業で安定的な収益基盤を確立させつつ、バイオ新薬事業及び再生医療における細胞治療分野を軸とした新規バイオ事業で成長性を追求してまいります。

当第2四半期連結累計期間における各事業の進捗状況は以下のとおりであります。

#### ① バイオ後続品事業

富士製薬工業(株)と持田製薬(株)による好中球減少症治療薬「フィルグラスチムBS」の販売が順調に推移しており、当社の経営の安定感は継続しております。これに続く品目として、(株)三和化学研究所と共同開発を行っているダルベポエチンアルファバイオ後続品については、2019年9月に同社が厚生労働省より医薬品製造販売承認を取得いたしました。また、千寿製薬(株)と共同開発を行っているバイオ後続品については、国内における第Ⅲ相臨床試験を順調に進めている一方で、2019年1月にOcumension Therapeuticsと中国及び台湾における当該製品の独占的ライセンス契約を締結し、同地域での事業化の足掛かりとするなど国内外で着実に事業を前進させております。

#### ② バイオ新薬事業

次世代型抗体医薬品等の研究開発を進めた結果、新規メカニズムに基づく新生血管形成を阻害する抗RAMP2抗体を創出することに成功し、眼疾患の治療並びにがん領域における抗腫瘍効果を期待できる医薬品候補として、2017年9月に当該抗体に関する特許を出願し、2018年9月には国際特許出願を行いました。今後は、知的財産権の確保を図りながら当該医薬品候補抗体の研究開発を進め、製薬企業へのライセンスアウトを目指してまいります。

#### ③ 新規バイオ事業

2016年10月にノーリツ鋼機グループの一員である(株)日本再生医療と資本業務提携を行い、同社が開発中の心臓内幹細胞を用いた再生医療等製品の事業化を目指し、再生医療分野の事業拡大に取り組んでおります。また、2018年4月にはナノキャリア(株)とノーリツ鋼機(株)と当社との間で資本業務提携契約を締結し、それぞれが所有する技術・知見等を組み合わせ革新的な技術・医薬品を創出するべく、3社協働体制下にて創業活動をスタートさせました。さらに、2019年4月には、歯の内部に存在する歯髄と呼ばれる細胞を用いた幹細胞を利用して新しい医療技術や再生医療等製品の開発を行っている(株)セルテクノロジーを株式交換により完全子会社化いたしました。今後は、上述の(株)日本再生医療の心臓内幹細胞と(株)セルテクノロジーの歯髄幹細胞を基に当社の再生医療事業における細胞治療プラットフォームを確立することで、新たな製品及び治療法の開発等、様々な事業展開を図ってまいります。このうち、歯髄幹細胞を活用した事業展開の一環として、2019年5月にORTHOREBIRTH(株)と口唇口蓋裂の治療法創出に向けた共同研究開発契約、同9月に昭和大学及び岐阜薬科大学とそれぞれ骨疾患、眼疾患の治療法創出に向けた共同研究契約を締結するなど着実に事業を前進させております。加えて、同10月には生物資源の分譲販売に長けた住商ファーマインターナショナル(株)と提携し、同社の物流・販路をとおして歯髄幹細胞を安定的かつ迅速に国内外の研究者に供給を開始いたします。これにより歯髄幹細胞を活用した新たな医療の研究・開発を加速してまいります。

このほか、2019年8月にiPS細胞を活用して心筋再生医療の確立を目指すHeartseed(株)に投資を実施し同社との協業の可能性を探り、また当社の完全子会社であるセルテクノロジーが進める培養上清事業のうち美容クリニック等向けの事業運営及び権利義務を会社分割によって設立した(株)レムケアに承継し、再生医療事業の拡充とグループ内事業の切り分けによって効率的な経営を図っております。これらに加えて「バイオで価値を創造するエンジニアリングカンパニー」としてIT、医療サービス、診断や医療機器などにもアプローチしながら新たな治療法の提供に努めてまいります。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は313,661千円、営業損失は611,310千円、経常損失は613,934千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は6,550,155千円となりました。

(注) 当社は、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間との比較分析は行っておりません。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は、2,816,933千円となりました。その主な内訳は、現金及び預金1,602,408千円、前渡金354,869千円、投資有価証券352,942千円であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、573,271千円となりました。その主な内訳は、流動負債のその他に含まれる未払金240,682千円、前受金238,003千円であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、2,243,662千円となりました。その主な内訳は、資本金611,711千円、資本剰余金9,917,311千円、利益剰余金△8,311,004千円であります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度末に比べ406,964千円減少し、1,602,408千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により減少した資金は604,697千円となりました。これは主に、売上債権の減少392,876千円があったものの、減損損失5,938,405千円を含む税金等調整前四半期純損失を6,548,774千円計上したほか、前渡金の増加135,776千円、仕入債務の減少79,473千円及び未払金の減少76,697千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金は106,258千円となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出100,349千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により増加した資金は40,294千円となりました。これは主に、新株予約権の行使による株式の発行による収入40,325千円があったことによるものであります。

(注) 当社は、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月10日付で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)	
<b>資産の部</b>	
流動資産	
現金及び預金	1,602,408
売掛金	169,098
仕掛品	204,606
前渡金	354,869
その他	59,115
流動資産合計	2,390,099
固定資産	
有形固定資産	2,032
無形固定資産	76
投資その他の資産	
投資有価証券	352,942
その他	71,783
投資その他の資産合計	424,725
固定資産合計	426,834
資産合計	2,816,933
<b>負債の部</b>	
流動負債	
買掛金	11,602
短期借入金	25,000
未払法人税等	30,419
その他	482,574
流動負債合計	549,596
固定負債	
退職給付に係る負債	19,230
その他	4,444
固定負債合計	23,674
負債合計	573,271
<b>純資産の部</b>	
株主資本	
資本金	611,711
資本剰余金	9,917,311
利益剰余金	△8,311,004
自己株式	△31
株主資本合計	2,217,987
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△17,359
その他の包括利益累計額合計	△17,359
新株予約権	43,034
純資産合計	2,243,662
負債純資産合計	2,816,933

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位: 千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	313,661
売上原価	84,500
売上総利益	229,160
販売費及び一般管理費	
研究開発費	484,033
その他	356,437
販売費及び一般管理費合計	840,471
営業損失(△)	△611,310
営業外収益	
受取利息	63
講演料収入	155
雑収入	139
営業外収益合計	358
営業外費用	
支払利息	376
株式交付費	1,847
為替差損	554
雑損失	204
営業外費用合計	2,982
経常損失(△)	△613,934
特別利益	
投資有価証券売却益	4,419
特別利益合計	4,419
特別損失	
固定資産除却損	854
減損損失	5,938,405
特別損失合計	5,939,259
税金等調整前四半期純損失(△)	△6,548,774
法人税、住民税及び事業税	1,381
法人税等合計	1,381
四半期純損失(△)	△6,550,155
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△6,550,155

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純損失(△)	△6,550,155
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△18,971
その他の包括利益合計	△18,971
四半期包括利益	△6,569,126
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△6,569,126
非支配株主に係る四半期包括利益	—



(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△6,548,774
減価償却費	203
減損損失	5,938,405
受取利息及び受取配当金	△63
支払利息	376
投資有価証券売却損益 (△は益)	△4,419
固定資産除却損	854
売上債権の増減額 (△は増加)	392,876
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△51,445
前渡金の増減額 (△は増加)	△135,776
仕入債務の増減額 (△は減少)	△79,473
未払金の増減額 (△は減少)	△76,697
その他	△37,931
小計	△601,866
利息及び配当金の受取額	63
利息の支払額	△371
法人税等の支払額	△2,521
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△604,697</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△1,935
投資有価証券の取得による支出	△100,349
投資有価証券の売却による収入	4,720
その他	△8,693
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△106,258</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
新株予約権の行使による株式の発行による収入	40,325
その他	△31
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>40,294</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	-
<b>現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)</b>	<b>△670,660</b>
現金及び現金同等物の期首残高	2,009,373
<b>株式交換による現金及び現金同等物の増加額</b>	<b>263,696</b>
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,602,408

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は2019年4月1日付で、当社を株式交換完全親会社、(株)セルテクノロジーを株式交換完全子会社とする株式交換を行いました。この結果、資本準備金が6,032,615千円増加し、当第2四半期連結累計期間における新株予約権の行使による増加を含め、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が611,711千円、資本準備金が9,917,311千円となっております。

なお、当該企業結合により発生したのれんの減損損失を含む親会社株主に帰属する四半期純損失6,550,155千円を計上したことにより、当第2四半期連結会計期間末における株主資本の合計は2,217,987千円となりました。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

2019年4月1日を効力発生日とする株式交換による(株)セルテクノロジーの完全子会社化に伴い、第1四半期連結会計期間より、同社を連結の範囲に含めております。なお、(株)セルテクノロジーは、当社の特定子会社に該当していません。